

第3章 立地適正化に関する方針

3-1 まちづくりの方針及び誘導方針

第6次東浦町総合計画の『将来の東浦町の姿』及び都市計画マスタープラン『将来都市像』『都市づくりの目標』『将来都市構造』の実現に向け、前章で整理した都市構造上の課題に対応したまちづくりの方針（ねらい）及び誘導方針を整理します。

第6次東浦町総合計画【将来の東浦町の姿】

つくる つながる ささえあう 幸せと絆を実感できるまち 東浦

つくるまちへ

将来の東浦町をつくる意識を共有し、若者や高齢者など、あらゆる方の活躍の場や機会づくりから、新たな挑戦ができるまち

つなげるまちへ

人と人とのつながりに加え、東浦町にある様々な資源や東浦町と近隣市町のつながりから、東浦町の新たな魅力や新しい活力が生まれるまち

ささえるまちへ

東浦町での日々の暮らしや教育、子育てなどのささえあいから、まち全体でささえあい、安心して住み続けられるまち

都市計画マスタープラン

【将来都市像】

住みたい 住み続けたい

集い 憩い 想う まち ひがしうら

住みたい・・・町外からの魅力

住み続けたい・・・町内からの魅力

集い・・・コンパクトなまちの形成、地域コミュニティの充実

憩い・・・公園、緑地の整備。景観の維持形成
歩きたくなるまち

想う・・・ひがしうらを未来につなげる。
（インフラ整備、防災強化、景観の維持形成）

【都市づくりの目標】

- ①多様な連携による集約型都市構造の充実
- ②誰もが住みたいと思う快適な生活環境の維持・形成
- ③誰もが使いやすく快適な交通体系の整備
- ④地域資源を活用した産業の進行
- ⑤自然（緑・水）と共生する生活環境づくり

都市構造上の課題

課題1

これまでに形成してきた鉄道周辺に南北に延びるコンパクトな市街地を基本とした都市構造を今後も形成していくことが必要

課題2

人口減少や高齢化が進む中では、市街地に子育て世代をはじめとする居住の誘導を促進する良好な市街地環境の形成が必要

課題3

市街地が東西に分かれていることやベッドタウンとしての性格が強い本町の特性を踏まえて町内各地や他都市との連携を維持・充実することが必要

課題4

洪水、高潮、津波、液状化等の本町で懸念される災害に対する安全性の向上を図ることが必要

課題5

公共施設の老朽化や高齢化の進行等による歳出の増加が今後予想され、効率的な行財政運営が必要

まちづくりの方針（ねらい）

身近に都市機能が分布する便利で快適に日常生活がおくれるまち

鉄道駅や公共施設等に行きやすい気軽に外出できるまち

安心して住み続けられるまちづくり

誘導方針

【都市機能】

- 都市拠点に位置付けられた緒川駅周辺は広域からの利用が想定される機能をはじめとする都市機能の集積を図ります。
- 都市拠点や地域生活拠点に位置付けられた鉄道駅周辺を中心に幹線道路の立地ポテンシャルを活かしながら、生活に必要な都市機能の維持・充実を図ります。

【居住】

- 鉄道駅からの徒歩圏を中心とした駅周辺市街地では、生活に必要な都市機能が身近に揃う便利な暮らしを求める若年世代から高齢者等の多様な世代の居住を誘導します。
- 駅周辺市街地のうち、鉄道駅に近接した旧市街地では、古民家をはじめとする空き家の活用等により、公共交通の利便性を活かした住民等の居住を誘導します。
- 土地区画整理事業等により良好な都市基盤が整備された一団住宅地や住宅検討地では、ゆとりある住まいや自家用車を主な移動手段とする若年・ファミリー世代の居住を誘導します。

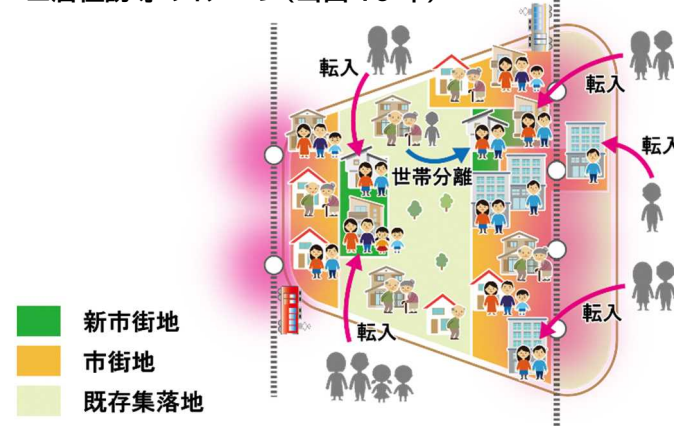
【公共交通（地域公共交通網形成計画：基本方針）】

- JR 緒川駅を交通結節拠点とした中心市街地の形成と、そこに町内各地の居住地域から公共交通で行き来することができる交通体系の構築を目指します。
- 近隣市町とも連携し、乗り継ぎの確保や広域路線を検討するなど公共交通のさらなる利便性の向上を目指します。
- 公共交通網の町内外の交流を促進する幹線交通とそれに連絡する支線交通について、地域や路線の特性に応じた交通サービスを選択し、それらを結節させ組み合わせ、くらしの足を確保し、住民のQOLを保証します。

【防災】

- 都市機能や居住機能を自然災害に対する安全性を考慮して立地誘導を検討します。
- 懸念される自然災害に対して総合的な防災、減災対策を実施し、災害リスクの回避及び低減を図ります。

■居住誘導のイメージ(当面10年)



3-2 目指すべき都市構造

- 本町における市街地は主に町東部の JR 武豊線沿線と町西部の名鉄河和線沿線にあります。これらの市街地では、人口密度が高い傾向にあり、今後も一定の人口密度が保たれる見込みであり、引き続きこうしたコンパクトな市街地の形成を目指します。
- 緒川駅周辺は知多都市計画区域マスタープラン（愛知県）及び本町都市計画マスタープランにおいて都市拠点に位置付けられ、広域から利用客が訪れる大型商業施設や町全体を 1 施設で対応する公共施設等の広域的な都市機能が集積しており、こうした都市機能の維持・充実を図ることで、町の中心となる拠点形成を目指します。
- 町西部の名鉄河和線沿線をはじめとする市街地から都市拠点に立地する都市機能のサービスを楽しむことができるよう公共交通等によるネットワークを形成することで、町民全体が便利で快適に生活できる都市構造の構築を目指します。
- こうした都市構造の構築にあたっては、町東部で想定される洪水、高潮、津波による浸水をはじめとする災害リスクを踏まえた都市機能、居住の誘導を図り、災害に強い都市形成を目指します。
- さらに、都市計画マスタープランにおいて地域生活拠点とともに観光交流拠点に位置付けられた東浦駅周辺については、多くの人々がにぎわい、地域の活力向上に資する都市機能の立地を図ります。

図 目指す都市構造イメージ

